

田植後4週間頃までに、「中干し」を実施しましょう。

1 水管理

①コシヒカリの「中干し」

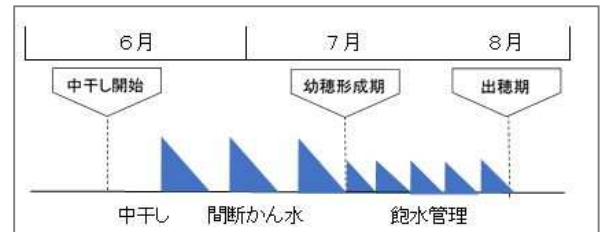
- ・まだ実施していない圃場では、早急に溝掘りを行い、中干しを始める。
- ・圃場中央部で、くるぶしが沈む程度を目安に干す。

熱中症に気を付けて、
作業を行いましょう!!

②「中干し」後の「間断かん水」

- ・葉色の急激な低下を防ぐため、間断かん水中に、圃場が乾き過ぎないように注意する。
- ・「3日湛水、4日落水(土壌条件や天候に応じて調節)」を繰り返し、徐々に硬くし、幼穂形成期までに足跡の深さが3cm程度になるよう固める。

中干し以降の水管理のイメージ(コシヒカリ)



「飽水管理」のポイント
足跡に水が残る程度の湿潤
状態を維持する。

③幼穂形成期以降、出穂期までの「飽水管理」

- ・足跡に水が残る程度とし、圃場が乾き過ぎないようにする。
- ・「3日湛水、2日落水(土壌条件や天候に応じて調節)」を繰り返す。

2 「てんたかく」の紋枯病防除

- ・紋枯病が多発する圃場は、追加防除する。

剤型	追加防除時期	薬剤	散布量
液剤	7/1頃	モンセレンフロアブル	1,500倍・150ℓ
粒剤	6/20~25頃	リンバー粒剤	3~4kg/10a

3 「てんたかく」の追肥

- ・倒伏や品質、食味の低下を招くので、**原則、追肥しない。**
- ・ただし、幼穂長1~2mm(6月下旬頃)の時期に、葉色が4.0を下回ると収量が低下するため、遅れずに追肥する。

追肥時期	判断基準	肥料名	施肥量
6月下旬	葉色 4.0 以下	追肥3号(15-3-16) または 流し込追肥化成らくらく(15-12-12)	7kg/10a (N: 1.05kg)

4 斑点米カメムシ対策

- ・水田周辺の畦畔だけでなく、雑草地も合わせて草刈りを実施する。
- ・大麦あと圃場は、大豆、えだまめ、野菜、緑肥などを積極的に作付けする。
- ・作付け予定がない場合は、カメムシ類の繁殖を防ぐため、速やかに雑草を処理し、その後も雑草が繁茂しないように管理する。

○草刈り運動期間 6月28日(金)~7月7日(日)
○一斉草刈り日 6月29日(土)~30日(日)

草刈りを徹底し、カメムシ類による斑点米被害を無くしましょう。